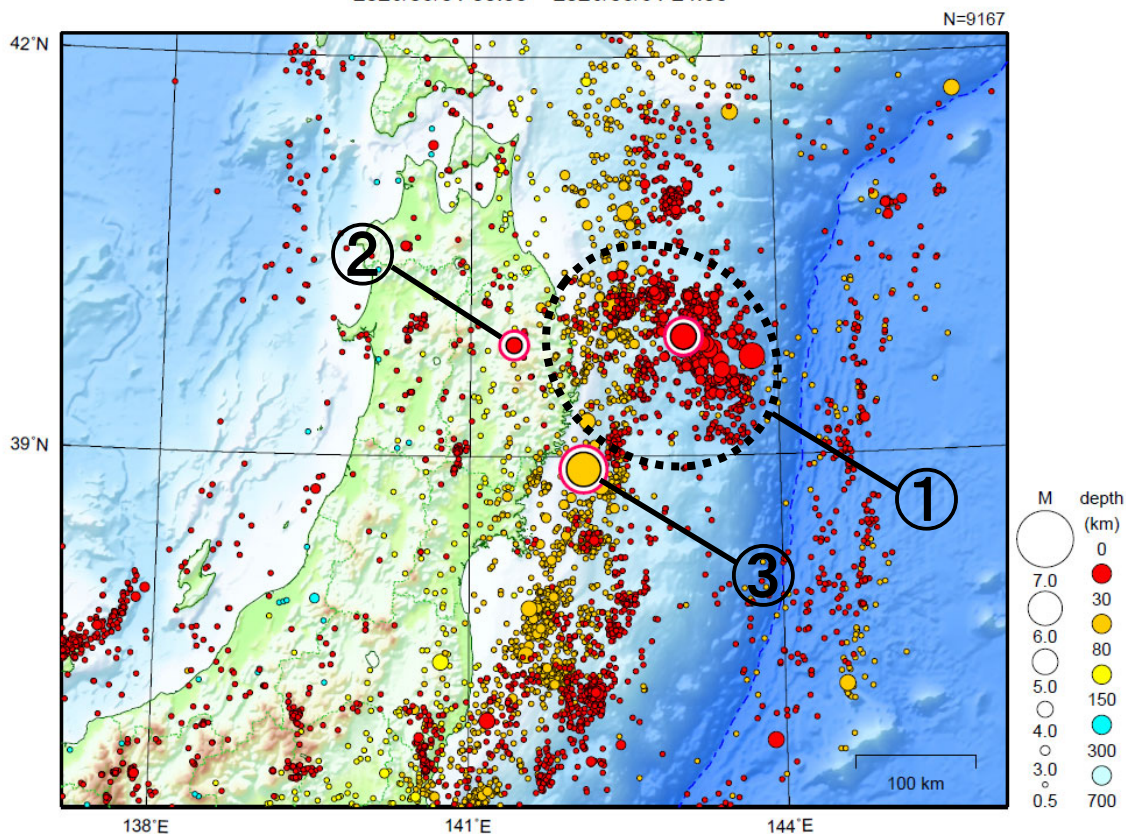


東北地方

2026/05/01 00:00 ~ 2026/05/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 5月5日に三陸沖で M5.4 の地震(最大震度 3)が発生した。この地震の震央付近では、5月中に震度 1 以上を観測した地震が 16 回 (震度 3 : 1 回、震度 2 : 3 回、震度 1 : 12 回) 発生した。
- ② 5月14日に岩手県内陸北部で M4.8 の地震(最大震度 4)が発生した。
- ③ 5月15日に宮城県沖で M6.4 の地震(最大震度 5 弱)が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

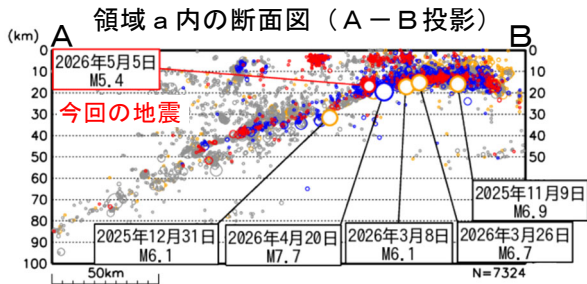
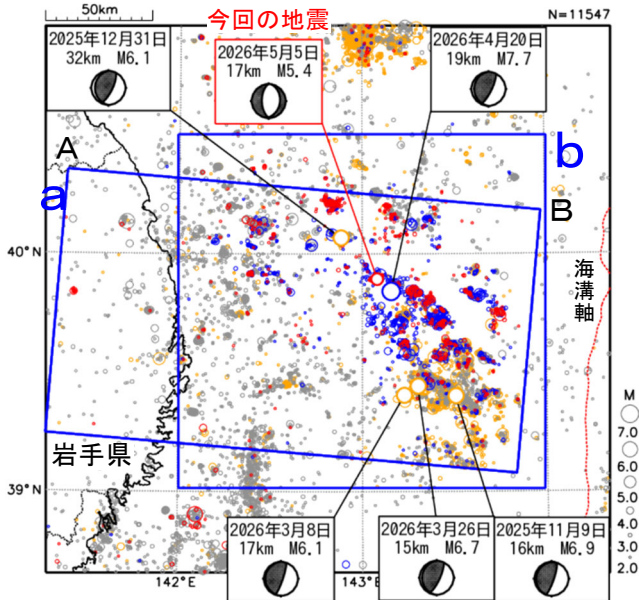
気象庁・文部科学省

5月5日 三陸沖の地震

(2025年11月からの三陸沖の地震活動)

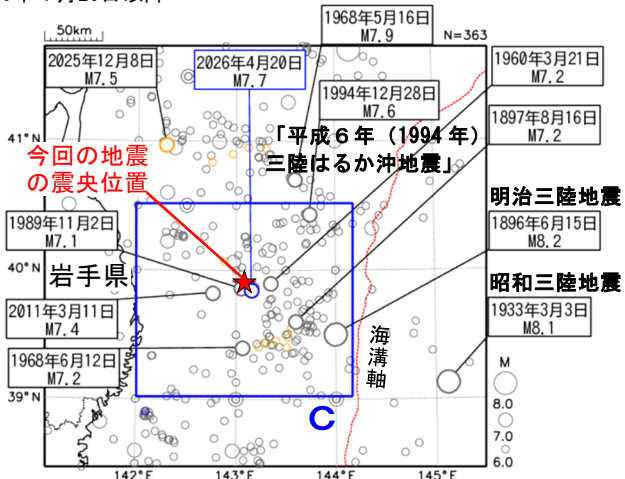
震央分布図
(2020年9月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 2.0)

○2020年9月1日～2025年10月31日 ○2025年11月1日～2026年4月19日
●2026年4月20日～2026年4月30日 ●2026年5月1日以降
図中の発震機構はCMT解を示す



震央分布図
(1885年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 6.0)

○1885年1月1日～2025年10月31日 ○2025年11月1日～2026年4月19日
●2026年4月20日以降



震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982, 1985)による。

宇津徳治(1982):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年,震研彙報,56,401-463.

宇津徳治(1985):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年(訂正と追加),震研彙報,60,639-642.

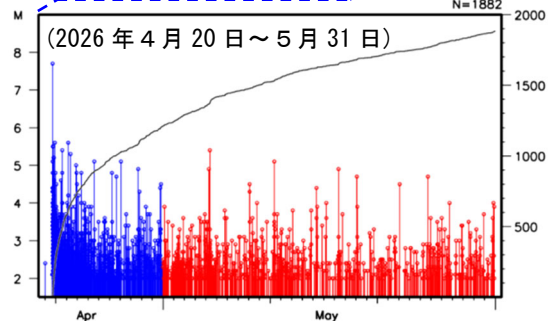
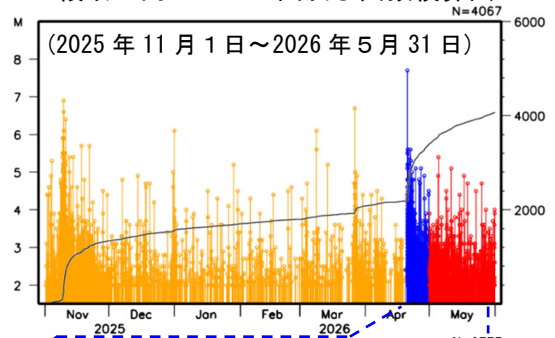
茅野一郎・宇津徳治(2001):日本の主な地震の表,「地震の事典」第2版,朝倉書店,657pp.

2026年5月5日08時54分に三陸沖の深さ17kmでM5.4の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が東西方向に張力軸を持つ正断層型である。

今回の地震の震央付近(領域b)では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、11月9日にはM6.9の地震(最大震度4)が発生した。その後も活動は活発で、M6.0以上の地震が度々発生していた。2026年4月20日にM7.7の地震(最大震度5強)が発生すると、地震活動はさらに活発となった。

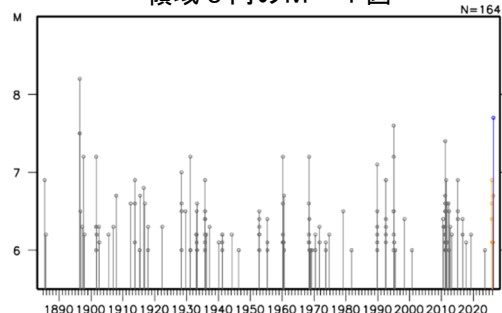
領域bでは、5月1日から31日までに震度1以上を観測する地震が16回(震度3:1回、震度2:3回、震度1:12回)発生しており、地震活動が活発な状況が継続している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M7.0以上の地震が時々発生している。1896年6月15日にはM8.2の地震(明治三陸地震)が発生し、死者21,959人などの甚大な被害となった(被害は「日本被害地震総覧」による)。

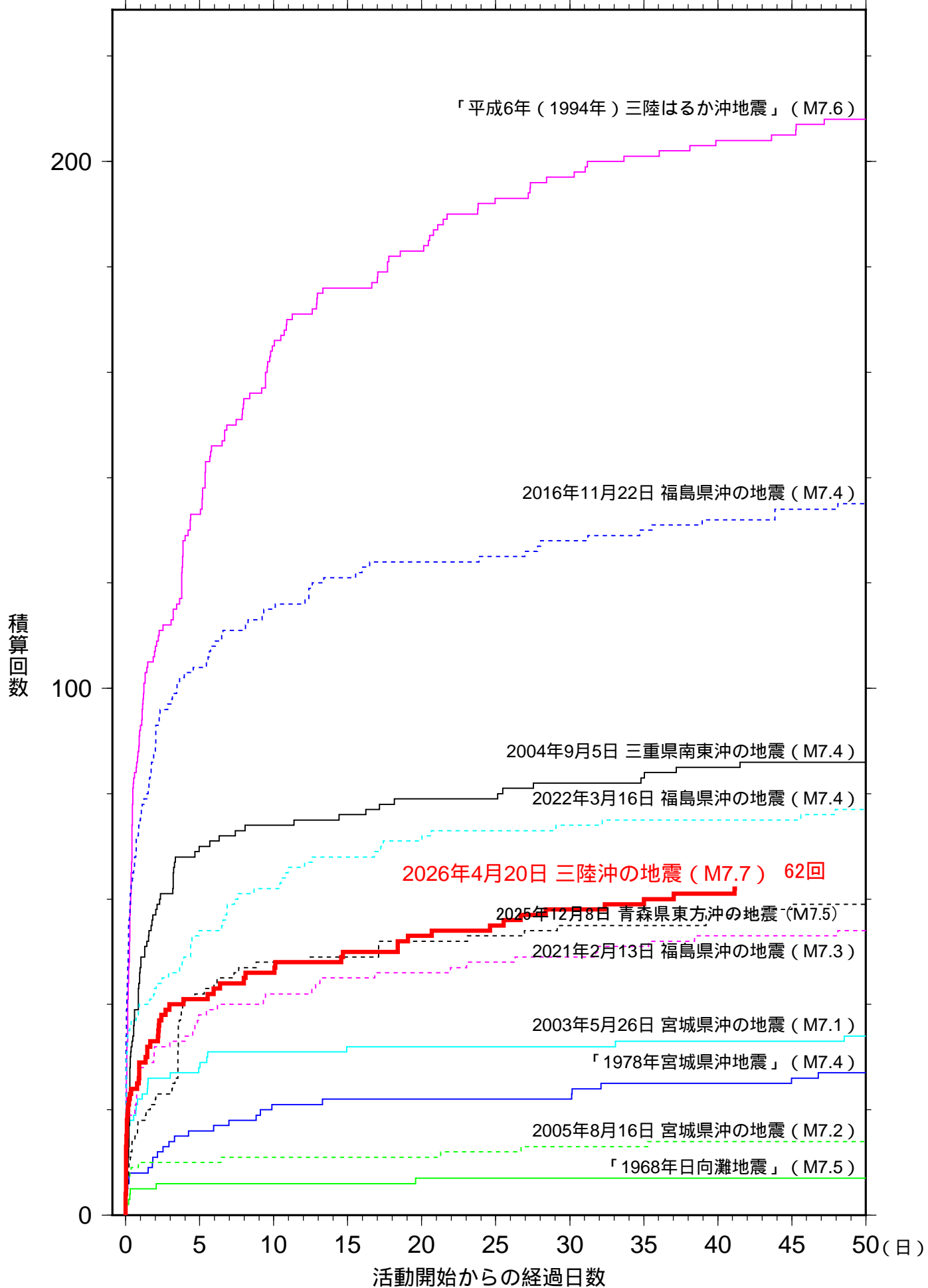
領域c内のM-T図



主な地震活動の地震回数比較（マグニチュード4.0以上）

(回)

2026年06月01日00時00分現在



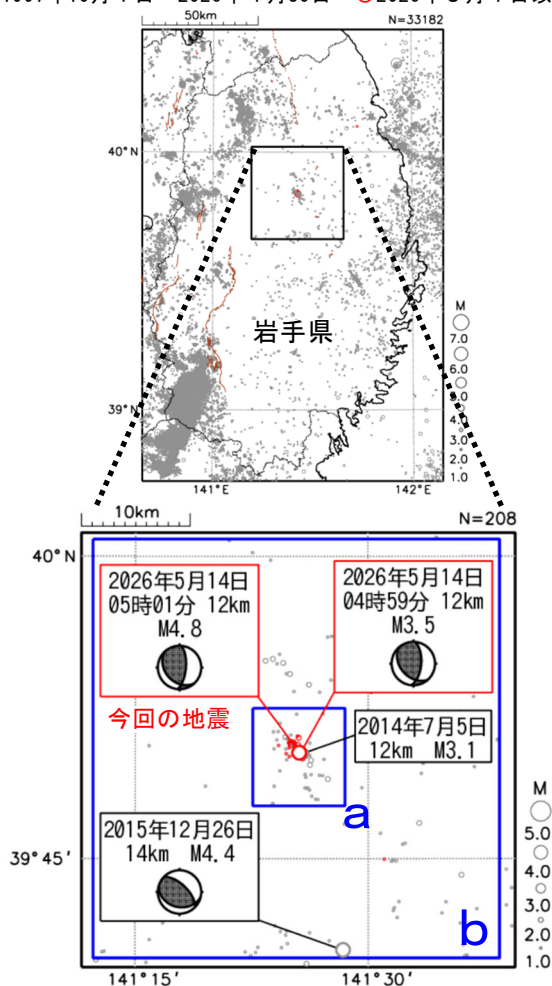
この資料には速報値が含まれており、後日の調査で変更することがある。
今回の地震のマグニチュードについては、これまでの最大を示している。

気象庁作成

5月14日 岩手県内陸北部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2026年5月31日、
深さ0～30km、M≥1.0)

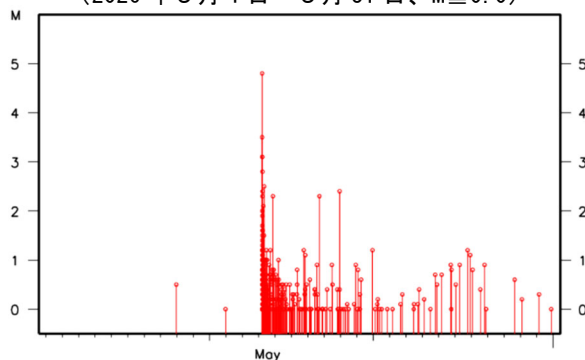
○1997年10月1日～2026年4月30日 ○2026年5月1日以降



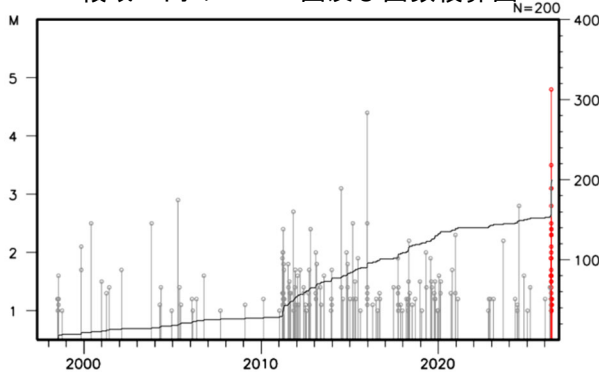
2026年5月14日05時01分に岩手県内陸北部の深さ12kmでM4.8の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震の震央近傍(領域a)では、5月14日04時59分にM3.5の地震(最大震度2)が発生して以降地震活動が活発となり、14日04時から06時までに震度1以上を観測する地震が5回(震度4:1回、震度2:1回、震度1:3回)発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域b)ではM3.0以上の地震が2回発生していた。領域bでM5程度の地震が発生したのは今回が初めてである。

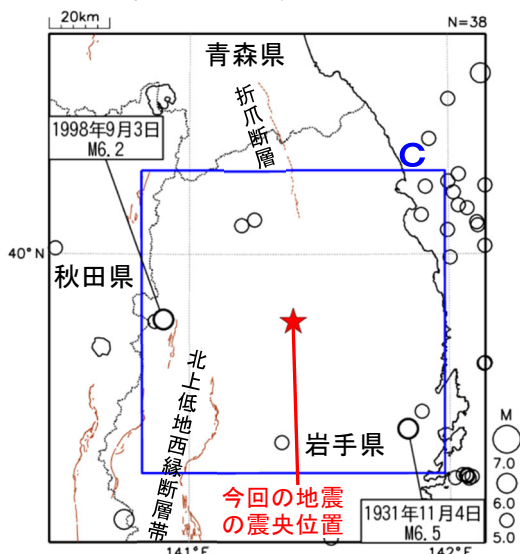
領域a内のM-T図
(2026年5月1日～5月31日、M≥0.0)



領域b内のM-T図及び回数積算図



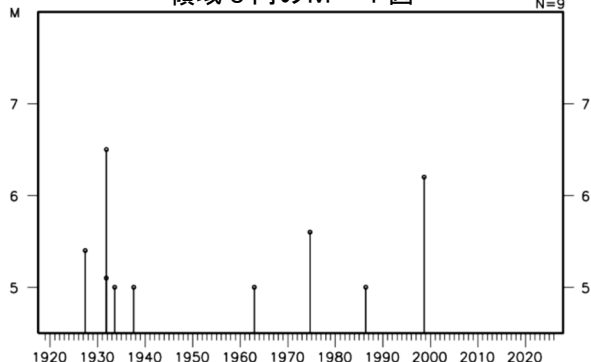
震央分布図
(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～50km、M≥5.0)



震央分布図上の茶線は地震調査研究推進部の長期評価による活断層を示す。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)ではM6.0以上の地震が2回発生している。1998年9月3日にはM6.2の地震(最大震度6弱)が発生し、負傷者9人などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

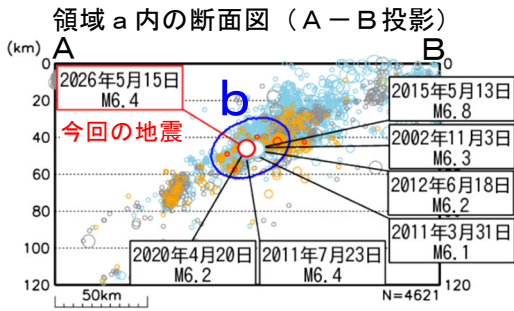
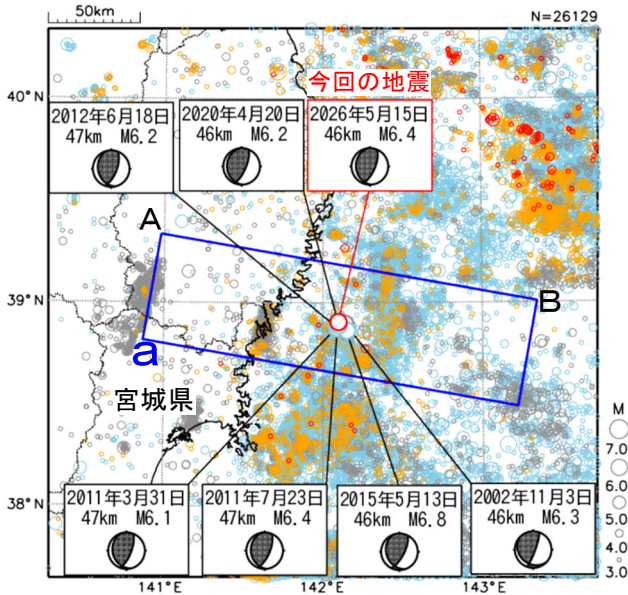
領域c内のM-T図



5月15日 宮城県沖の地震

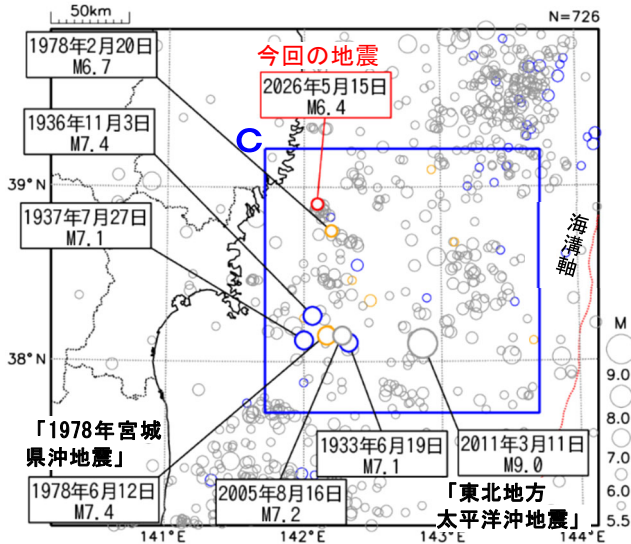
震央分布図
(1997年10月1日～2026年5月31日、
深さ0～120km、M \geq 3.0)

- 1997年10月1日～2011年2月28日 ○2011年3月1日～2020年8月31日
 - 2020年9月1日～2026年4月30日 ○2026年5月1日以降
- 図中の発震機構はCMT解を示す



震央分布図
(1919年1月1日～2026年5月31日、
深さ0～100km、M \geq 5.5)

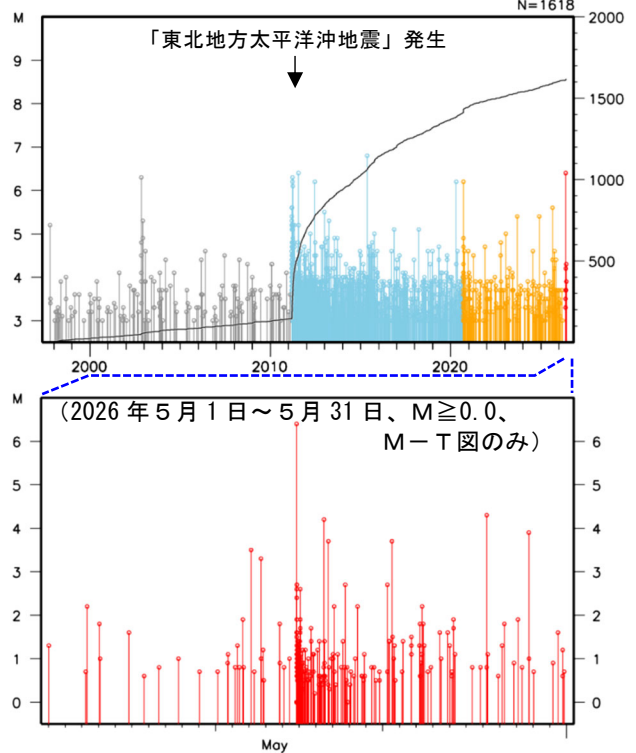
- 1933年1月1日～1937年12月31日 ○1978年1月1日～1979年12月31日
- 2026年5月1日～2026年5月31日 ○上記以外の期間



2026年5月15日20時22分に宮城県沖の深さ46kmでM6.4の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、「東北地方太平洋沖地震」)以降、地震活動が活発となっており、M6.0以上の地震が時々発生している。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では「東北地方太平洋沖地震」のほか、M7.0以上の地震が時々発生している。1978年には「1978年宮城県沖地震」(M7.4、最大震度5)が発生し、仙台新港で30cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測するなど、北海道から千葉県にかけての太平洋沿岸で津波を観測した。この地震により、死者28人、負傷者1,325人、住家全壊1,183棟等の被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域 c 内の M-T 図

